

実践例 「学校・学級経営の深化・充実」

課題2 ふるさとで学び、新しい時代を拓く、開かれた学校・学級経営の創造と推進

I 学校名 根室市立海星小中学校

II 海星小中学校の概要

1 根室市と海星小中学校

根室市は、「朝日にいちばん近い街」であり、北海道最東端の市である。太平洋に細長く突き出た半島に位置している歴史ある市である。海に囲まれた平坦な台地であり、漁業と酪農が基幹産業である。

海星小中学校は、根室市の市街地から10kmほど西にある開校15年目の小中併置校である。平成18年に120年あまりの歴史ある幌茂尻小学校と和田小学校の2つの小学校と、この2校を校区にもつ和田中学校を統合新設した小中併置校である。開校当初の児童生徒数は70名を超え全て単式学級だったが、現在は50名ほどに減少し、数年前から小学校は完全複式である。

漁業を中心とする東梅・温根沼・幌茂尻・長節の4地区と酪農の西和田・東和田との6地区からなる広大な校区である。同じ漁業でも地区による特色が違い、風土の違いも顕著である。また、和田地区は土族屯田兵が入植して開村した古い歴史があり、昭和32年に根室市と合併するまで、校区を含むこの一体は和田村であった。

2 海星小中学校の教育

本校の子どもたちは明るく素直である。小規模校・併置校のよさに挙げられる小学生や下学年の面倒をよく見る、優しく思いやりがある、働くことや与えられた課題にまじめに取り組むなどの姿がある。しかし、各種調査等から学力、体力に課題があり、主体的に解決しようとする場面が少なく、自己肯定感が低いなどの現状がある。

このようなことから、「確かな学力」の育成と定着、社会性の育成、基礎体力の向上、小中併置校の特色を生かした学校づくりが学校課題とおさえている。

目指す学校像を「笑顔あふれる元気な学校」、子ども像を今年度はキャッチフレーズ的に「しっかり 頭・心・体 を動かす子ども」と示した。

III 実践紹介

学校経営方針や重点の一つに、「地域の教育資源や人材の活用及び関係機関との連携に努め、教育活動の充実を図る」がある。豊かな人間関係づくり（社会性）の充実や、自尊感情（自己肯定感）の醸成に向け、異学年集団の活動や、地域素材及び地域人材を活用した体験活動の充実を積極的にすすめることが重要となっている。併置校・地域の特色を生かして、9年間の連続性や適時性を生かした活動や、北方領土・和田屯田などこの地域ならではの郷土学習を推進している。

統合前の小学校や中学校が実施してきた活動を引き継いで行っている活動がある。新たに始めた学習もたくさんある。どちらも「地域を知る」「地域を生かす」学習活動であり、より確かな学びとなるよう工夫改善しながら実施している。

1 春国岱清掃

(1) 春国岱とは

春国岱は、根室市と別海町をまたぐ汽水湖である風蓮湖とオホーツク海の間に横たわる長さ8km、最大幅1.3kmの細長い島である。周囲を海と湖、干潟に囲まれ、海岸草原、湿原、森林など多様な環境がひとまとまりになっている。春国岱・風蓮湖は、約310種類という国内で見ることができる野鳥の半分以上が記録され、野鳥の聖域と言われている。平成17年にはラムサール条約に風蓮湖とともに登録された。この自然の宝庫である春国岱は本校の校区にあり、5kmほどの距離、車で10分足らずで行くことができる。

(2) 活動の経緯

清掃活動は開校時から継続して実施している。統合前の和田中学校が長年にわたり全校で取り組んでき活動を引き継ぎ、中学校で実施していた。数年前からは小学校5・6年生も清掃活動に加わり、中学生と一緒に活動している。また、小学校3・4年生は清掃活動と同じ時間帯に、春国岱にあるネイチャーセンターでの資料見学と、ガイドとの春国岱散策を実施している。7年間にわたる環境学習としている。



(3) 活動の実際

ねらい：春国岱清掃活動を通し、身近な地域の自然のよさに気づくとともに、環境への理解を深め、ラムサール条約登録地でもある地域の自然を進んで守ろうとする心情を養う。



事前学習：総合的な学習の時間で実施する。春国岱の自然やラムサール条約について学習する。これまでの活動をふり振り返り交流する。清掃活動の基本事項を確認する。

活動内容：清掃活動と海上保安部の講話（小5～中3） 資料見学と散策（小3・4）

外部協力：根室海上保安本部・・・清掃活動、講話

ネイチャーセンター・・・講話、資料提供

市環境衛生課・・・ゴミ袋の提供、ゴミ収集用はさみの借用



清掃活動の前に現地でネイチャーセンターの方から、ラムサール条約で提唱された考え方「ワイズユース」が私たちの生活を支えていることや、自然に還らないプラスチックゴミ問題やマイクロプラスチックなどについて講話がされた。年1回の清掃活動だが、子どもたちは5年間にわたり活動することで環境保全への意識を高めている。

2 地域学習（総合的な学習の時間）

総合的な学習の時間を「地域・環境」「情報」「栽培・食育」「国際理解」「北方領土」「自分史・キャリア」「創作」の内容で進めている。「地域学習」では、地域に根ざした教育活動になるよう地域の素材や人材を活用した体験活動を中心に学びを展開している。

小学校においては、次のように目標を設定している。

《中学年》地域の産業を支える人々との関わりを通して、地域に愛着をもつとともに、地域の一員としての資質や能力を育てる。

《高学年》地域の産業にかかわり、課題を見つけ、仲間と協力して、主体的・創造的・協同的に課題を解決し、新たな課題に向かって探求する力を育てる。

また、資質・能力・態度として、次の姿を目指している。(一部抜粋)

- ・地域の産業の魅力を再発見し、地域の一員としての自覚をもつ
- ・地域の様々な人々とのかかわりを通して、地域に対する親しみと愛着を高め、自分の生き方を考える

(1) チカ採卵学習

実施学年：小学校3～6年生

実施場所：湾中漁協

活動内容：湾中漁協の方に指導してもらいチカの採卵を行う。

採卵や受精、育てる漁業について知る。

関連教科：社会科(地域の産業) 理科(生命の誕生)

地域人材：湾中漁協

根室湾では、湾中漁協がチカの養殖を行っている。4月下旬の数日しかない採卵期にチカを獲り、採卵して受精させている。子どもたちは実際に湾中漁協の方々が行っている作業と一緒に、育てる漁業を学んでいる。



(2) ホタテ水産学習(ホタテの貝むき)

実施学年：小学校1～6年

実施場所：本校体育館

活動内容：湾中漁協青年部の方からの講話。

(漁業の取組、育てる漁業、工夫など)

ホタテの貝をむく。

地域人材：湾中漁協青年部



(3) あさり学習

実施学年：小学校3～6年

実施場所：風蓮湖(学校のあさり実験畑)

活動内容：干潟の観察とあさを掘る。

掘ったあさりから標識貝を収集し、成長を調べる。(大きさ、重さの計測)

標識のない貝には標識を付ける。

計測後に標識貝を干潟にもどす。

地域人材：湾中漁協



(4) 地場の海産物を使った調理実習

実施学年：中学校1～3年

実施場所：本校家庭科室

活動内容：地場で捕れた海産物（あさり・わかめ・チカ）を調理して味わう。
身近な食材の調理方法を和衷漁協婦人部の方々から教えてもらう。

地域人材：湾中漁協婦人部



(5) 酪農学習

実施学年：小学校3・4年

実施場所：本校図書室

活動内容：酪農家の方から仕事内容や苦労などを聞く。

地域人材：地域の酪農家

これまでは、実際に牧場に行き、見学、酪農体験などをしてきた。令和2年度はコロナ禍で学習の進め方や体験活動を見直した。地域の酪農の方に牧場や搾乳等を事前に動画で撮影させていただき視聴した。そこから疑問など質問を渡した。この方にゲストティーチャーとして来校いただき学習をすすめた。屯田兵が入植した東和田地区の方だったこともあり、今回は地域の屯田の資料館にある紙芝居を活用しつつ和田屯田についても講話をいただいた。

3 北方領土学習

根室市は北方領土に一番近い市であり、たくさんの元島民の方が暮らしている。曾祖父母や祖父母、親戚が元島民という家庭も少なからずある。小学校・中学校の9年間で系統的に学んでいる。小学校1・2年生は生活科、小学校3年生から6年生は総合的な学習の時間、中学校は社会科と総合的な学習の時間に位置づけている。

小学校では、島に興味を持たせ、島名を覚えることから学習が始まる。3年生からは北方領土の様子や、歴史、産業などについて学習する。高学年では、関係機関が実施してる「北方少女少年塾」に参加し、資料館や納沙布岬での見学や体験学習、元島民の方からのお話などを実施している。中学校の総合的な学習の時間では、①気候・条約について学ぶ ②討論会 ③北方少年少女塾 をサイクルに学習を展開している。



(1) 四島カルタ（しまカルタ）

小学校は、北方領土の日である2月7日に「四島カルタ」を実施している。統合前の幌茂尻小学校の児童が作成したカルタである。PTAの協力を得て、子どもたちにカルタが配られたそうである。大型の取り札を作成し全校でカルタ大会をしていた。これを引き継ぎ、小学校全員で毎年、北方領土の日を「海星 四島カルタの日」としてカルタ大会を実施している。現在の保護者の中にもカルタを作成した方がいる。

